

# おのゝたごはく



## 頑張れ日本の企業！

昨年も暗いニュースが続く中で一筋の明るい報道に心な慰めをいただきました。内親王「愛子」様誕生の報道です。

「成婚から八年、計り知れないプレッシャーの中での新しい命の誕生はどれほど遠い道のりだったことでしょうか。雅子様を推しはかるとはできませんが溢れんばかりの笑顔にすっかり魅せられてしまいました。

またこれもテレビの中だけですが、喜ぶ人々の顔を見て安直がもしもせんが「いついつことを素直に喜ぶことができる人がいる限り、日本はまだ大丈夫かな」とも感じました。

最近ますます低価格競争が激化してきています。特に外食産業においては牛丼やハンバーガーを筆頭に、とにかく熾烈な値下げ合戦が行われています。

確かに消費者の立場からすれば美味しくて安ければ安いほど良いということになりますが、そこに務める人たちは忙しさは以前並もしくはそれ以上、しかし給与は上がるどころか逆に減られる場合もある。この人たちも等しく消費者であり、給与が下がれば安いものへと行く。業者も食材納入価格圧縮の厳しい条件を迫られて利益を圧迫していく。利益が圧迫されればどこかで経費削減を計らなければ成り立たない、といった悪循環に陥っていると言われます。

しかし世界に目を転じれば国の政情が不安定で食べるものや着るもの、そして医療も満足に受けられず貧困にあえぐ人々が驚くほどいる。私たちの国はこんな状況にはなっていないませぬ。

ある感元の奥様がこんなことを言われていました。「今のこの状況が普通なのだと思います。私達はまだまだ貧困にはなっていない。もっと少し我慢をして、企業は国外に技術を移転させず、国の力を蓄えなければならぬ」と思っています。このまま海外に技術を流していけばそれこそ大変なことになってしまいます。」

この言葉を聞いて、そつだ、負けないように頑張らねば！と単純な私は背中を叩かれた思いがしました。

頑張れ日本！ 頑張れ日本の企業！  
（でも官僚のお手盛り主義があまり変わったとは思えないのは私だけでしょつか改革には時間が必要ですが、小泉首相には是非頑張ってもらいたいです。・・・）  
ともあれ、今年も元気で頑張ります。よろしくお願ひいたします。

### 第四回

- オオルリにハマる -

産部 副部長 佐藤 弘

「英国にこれほど美しい鳥はいない」調査地を来訪したランカスター市議の鳥キチ、アルフ・リグレイ氏はため息の後こう言って私が持つオオルリ雄にカメラを構えた。氏が Gulf war と言った、湾岸戦争が勃発した91年の春だった。

手持ちの図鑑によれば本種は中国東北部・朝鮮半島、それに日本で繁殖する東洋の鳥だ。日本には夏鳥として渡ってきてズメより一回り大きい。

雄の頭から尾までの背面と、翼上面のり色に似たものを探すとツクサの花が近いかなと思う。

これが陽光の下でコバルトブルーの金属光沢に輝くから、これを初めて見た人はその足で高倍率の望遠鏡を買いに走る、という伝説の鳥だ。（と誰かが言った）

巢の守役に徹する雌は気の毒なくらい地味な褐色をしている。

この宝石のような鳥が身近にいないかと思うとどっこい、繁殖期には低山帯の沢添いに立つ、高木の梢でテリトリーを主張している。

ウグイス、コマドリと並び日本の三鳴鳥と称されるからなかなかの美声で、ピーピーと暫く鳴いた後を必ずジジと締めくくる。

駅で出迎えた折に私に告げた、帰りの電車時刻が迫ってもリグレイ氏は一向に腰を上げなかった。

「Mr.Wrigley、ここから新馬場までは約25分かかります」遠まわしに促すと、「次の列車は何時ですか？」ときた。鳥キチがやる事は碧眼の英国紳士も私と一緒に、と笑いを噛み殺しながら時刻表を取り出した。

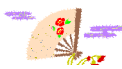
奥方は予定より35分長く待たされた筈だ。



### お正月おもてなしレシピ 豚肉の角煮

じっくり煮込んだバラ肉は、肉も脂もとろけそう  
お正月のお膳を雅やかにしてくれる事うけあい

#### 新しい年の新しいお酒をおちょこでぐり



- 豚(バラ肉かたまり) 600
- 生姜 1かけ
- ねぎ 1本



豚バラ肉を3つぐらいに切り分け、たっぷりの湯に1時間下茹でし、脂を抜き一晩おく。

翌朝、鍋に湯4C、酒100cc、皮付きぶつ切生姜ぶつ切ねぎ、を食べやすく角切したもの、を火にかけ沸騰したらアクを取り、落とし蓋をして、弱火で1時間煮て、砂糖、醤油、みりん各4Tを加え30分煮て味を付け、火を止める。

食べる時は、もう一度温める。その時おまけに、ゆで卵やしいたけを入れるとさらに絶品。

### 共に生きる (共生)

O部長 共に生きるという理念が個人であっても、企業であっても必要なのだと言われるけれど、業界内での共生は、頭で分かっていてもなかなか難しいものがあるね。」M次長 「どう時代になるとなさらそう、気持ちを持つのが難しくなってきましたよね…」O部長 そうそれではいけないんだけれどね…」K社員 業界内での共生というのは有り得ることなのですか？」O部長 良い例えとは言えないけれど、ラーメン屋さんがたつた1件ボソソとあって、あまり人がいない所と軒数近くあって人が沢山あつまっている所とは、どちらに行く？」K社員 それは沢山あるほうに行くと思います。でもそれが共生となんの関係があるんですか？」O部長 つまり、ラーメン屋さんが軒数あるということはそこには競争が起こる。少しでも良い物をつくってお客様を獲得しようと各社が技を磨く、それが相乗効果を生んで更に人が集まる、ということなんだよ。でもここで注意しなければならぬのは過度な競争は互いの足を引っ張り合うことになってしまう、ということなの。」M次長 つまり、自己研鑽のための競争はしても、過度な競争と対立の構造は衰退を生む、ということ…」O部長 そう、ということだね。今日は次長随分済んでいるじゃないの。」K社員 珍しい！部長が誉めている。」O部長 察々いれるんじゃないの、徐々に真面目な会話しているのに、M次長 え？オレはいつも真面目だけど。」O部長 あー、もう！またゴンHになったじゃないのぉー。どうしてこうなるの？！」M次長 「しんへんがな」